1945年8月6日8時15分。悲劇は突然訪れました。多くの人々が長い歳月をかけて築いてきた広島。たった一発の原子爆弾によって町は一瞬にして破壊され、多くの命、希望や夢という明るい未来が奪われました。

平和式典の参加や平和記念資料館の見学を通し、原爆や戦争の悲惨さ、命や平和の尊さを肌で感じ取ることができました。

「人間は美しいものをつくることができます。しかし、恐ろしいものをつくってしまうのも人間です。」

これは、平和式典で子どもたち式表が述べた「平和への誓い」のメッセージの一部です。私はこの言葉が深く心に響きました。平和記念資料館には、その恐ろしいものが造られた過程や被爆者の遺品、被爆の惨状を示す写真や資料が展示されていました。思わず目を背けたくなるものもあり、二の悲劇を再び繰り返してはいけないという強い思いがうまれました。そしてまた、何気ない日々を平和に過

20 × 20

ずっとができていることへの感謝の気持ちを改めてもつことができました。

戦争体験者や被爆者の方はどんどん少なくなっています。しかし私たち若い世代が、戦争の悲惨さと平和や命の尊さをしっかりと学び、つないでいくことが明るい未来への礎となると考えます。平和を想う・願うだけでなく、平和を創る一員になれるようにこれからの自分の生き方を考えていきたいです。

豊浦中

渡邊陽